

### ハサミと私

hair & make NEU 服部 円  
(東京都杉並区)

「美容師」小学校の卒業式で将来の夢として発表したのを今でも覚えています。

小さい頃、母の友人が美容師で、パーマをかけてもらったり、母にくっついて美容室に行くのが大好きでした。オシャレに興味が出だした中学時代。田舎者の私に、情報といえば雑誌を買うだけで精一杯。お気に入り穴があくほど見ました。

ロリータ・パンク・サイバーなど原宿がカラフルに色付けられた 90 年代。田舎でスーパーの服を着る私には、目眩がするほど刺激的でした。その頃から、裏方だった美容師が、オシャレの見本になりクローズアップされる事が多く、美容師に憧れがあった私は、くい入るように何度も見ました。

一般的な“美”より“個性”の 90 年代原宿カルチャーを多くの美容師さんが築き上げてきたと思います。その中でも、大好きな美容師さんがいました。その人の作品はどれもポップで、かわいく、ひと目で、その人の作品とわかるものばかりでした。この人との出会いで、美容師に対する憧れが、「美容師になる」という確信に変わりました。専門学校の就活で、まず、この人にアタックしましたが、みごとに玉砕。それでも美容師になり、憧れの東京で働いています。まわりは、どんどん辞めていく中、意地でも続けてきました。朝から夜おそくまで、練習して、家には寝に帰るだけそれでも、私は美容師自体を辞めたいと思った事は、ありませんでした。私の中に美容師しかなかったのもありますが、なにより、憧れのフィールドに立てている感動が大きいと思います。

今や、色々な業態の美容室があふれ、色々な美容師さんがいます。私は、どんな美容師でもいいから 1 人でも辞めてほしくない。同期や後輩、友達が辞めていく姿を何度も見ました。その度に、「ライバルが減った」より「同志が減った」という悲しさの方が大きいです。特に、美容師をキライになって辞めていく人。

私は、小さい頃から「なんで、みんな美容師にならないんだろ?」と思った程、夢見た仕事で、誇りでもあり

ます。

その仕事をキライになって、離れていくのを見送るのは、悲しいです。

お客様が大切なように、同志は大切です。それを、今のこの業界は、お客様が大事になりすぎて、同志が二の次、三の次になっているような気がします。あれだけ、夢見て入った世界を辞めていくのは、同志が同志だと思ってくれてなかったからだと思う。裏を返せば、こちら側も自分で一杯一杯で、その考えがなかったせいだ。何人も見送って、悲しい思いをして、やっと気づいた。そして、1 人でも、そういう人を出したくない。

私の美容師人生で、5本の指に入る言われて、うれしかった言葉は、保育園児のお客様が「美容師さんになりたい」と言ってくれた事です。そういう小さな芽を大切に大切に育てていきたい。

その為にも、胸をはって、この仕事が好きだと言える自信をもつ事が大切だと思っています。つらい事を、あげれば本当にキリはない。泣き事なんてザラにある。それを乗り越える強さを。

大型店、個人店いろいろあるが、今、このご時世だからこそ、店の垣根をとっばらってみんなが、つながり、がんばっていく事が、美容業界の発展であると思えます。そうであると信じています。